

Site Recovery Manager 8.1 の vRealize Orchestrator プラグインの 使用

Site Recovery Manager 8.1



vmware®

最新の技術ドキュメントは VMware の Web サイト (<https://docs.vmware.com/jp/>) にあります
このドキュメントに関するご意見およびご感想がある場合は、docfeedback@vmware.com までお送りください。

VMware, Inc.
3401 Hillview Ave.
Palo Alto, CA 94304
www.vmware.com

ヴィエムウェア株式会社
105-0013 東京都港区浜松町 1-30-5
浜松町スクエア 13F
www.vmware.com/jp

Copyright © 2018 VMware, Inc. 無断転載を禁ず。著作権および商標情報。

目次

- 1 Site Recovery Manager プラグインの使用 4
- 2 vRealize Orchestrator Plug-In for Site Recovery Manager による自動操作 5
- 3 Site Recovery Manager プラグインのインストール 7
 - Site Recovery Manager プラグインの機能前提条件 7
 - Site Recovery Manager プラグインのインストール、アップグレード、およびアンインストール 8
- 4 Site Recovery Manager プラグイン ワークフローの使用 9
 - Site Recovery Manager プラグインで利用できるワークフロー 9
 - Site Recovery Manager プラグインを使用する際の前提条件 12
 - 構成ワークフロー 12
 - Site Recovery Manager プラグインでのインベントリ マッピング ワークフロー 14
 - Site Recovery Manager プラグインの保護グループ ワークフロー 19
 - Site Recovery Manager プラグインのリカバリ プラン ワークフロー 22
 - Site Recovery Manager プラグインのサンプル ワークフロー 28
 - Site Recovery Manager プラグインのストレージ ワークフロー 30
 - Site Recovery Manager プラグインの制限事項 31

Site Recovery Manager プラグインの使用

1

「Site Recovery Manager 用の vRealize Orchestrator プラグインの使用」8.1 ガイドでは、VMware Site Recovery Manager の VMware vRealize Orchestrator プラグインの構成と使用に関する情報および注意について説明します。

対象者

「Site Recovery Manager 用の vRealize Orchestrator プラグインの使用」8.1 ガイドの情報は、Site Recovery Manager プラグインを使用して vSphere 環境で保護およびリカバリ構成タスクを自動化する熟練管理者向けです。この情報は、vRealize Orchestrator のワークフロー開発や VMware Site Recovery Manager など、仮想マシン テクノロジーを理解した熟練ユーザー向けに作成されています。

vRealize Orchestrator の詳細については、『vRealize Orchestrator のドキュメント』を参照してください。

Site Recovery Manager の詳細については、『VMware Site Recovery Manager のドキュメント』を参照してください。

vRealize Orchestrator Plug-In for Site Recovery Manager による自動操作

2

vRealize Orchestrator plug-in for Site Recovery Manager を使用すると、Site Recovery Manager インフラストラクチャの作成を自動化し、サイト間のリソース マッピングの管理、保護グループとリカバリ プランの構成、仮想マシンの保護グループへの追加、仮想マシンのリカバリ構成、リカバリの実行を行うことができます。

vRealize Orchestrator plug-in for Site Recovery Manager を使用すると、仮想マシンをアレイベース レプリケーションまたは vSphere Replication 保護グループに追加することによって保護できます。プラグインにより、仮想マシンにおける vSphere Replication の構成が自動化されることはありません。vRealize Orchestrator Plug-In for vSphere Replication を使用して、仮想マシンに vSphere Replication を構成したり、vSphere Replication を手動で構成したりできます。vRealize Orchestrator Plug-In for vSphere Replication の詳細については、vSphere Replication の vRealize Orchestrator プラグインのリリース ノートを参照してください。

vRealize Orchestrator plug-in for Site Recovery Manager には、vRealize Orchestrator のアクション、ワークフロー、特定のイベントが発生した場合にアクションをトリガするポリシー テンプレート、Site Recovery Manager API の指定した要素をワークフローに公開するためのスクリプティング オブジェクトが含まれます。

このプラグインは、ローカルおよびリモート サイトの構成、ローカル サイトの削除、リモート サイトへのログインを行うワークフローを提供します。

注意 ローカル サイトとリモート サイトを構成するワークフローでは、vRealize Orchestrator トラスト ストアに、ローカル サイト インフラストラクチャ ノードの SSL 証明書と、ローカル サイトの vCenter Server SSL 証明書がすでにあることを前提としています。組み込みの構成では、vRealize Orchestrator トラスト ストアに証明書が 1 つだけあることを前提としています。管理者がいずれかの SSL 証明書を更新した場合は、適切なワークフローを再実行する必要があります。

このプラグインは、Site Recovery Manager インフラストラクチャでインベントリ マッピングを管理するアクションとワークフローを提供します。

- フォルダ マッピングの追加、取得、削除
- ネットワーク マッピングの追加、取得、削除
- リソース マッピングの追加、取得、削除
- テスト ネットワーク マッピングの追加、取得、削除

このプラグインは、保護グループを管理して構成するアクションとワークフローを提供します。

- アレイベース レプリケーションまたは vSphere Replication の保護グループの作成、リスト、削除
- vSphere Replication 保護グループから複製された仮想マシンの追加または削除

- 仮想マシンの保護または保護解除
- 保護グループに関連付けられたすべての仮想マシンの保護
- 保護されたデータストアのリスト
- 未割り当ての複製されたデータストアの取得
- データストアごとのアレイベース レプリケーション保護グループの検出

このプラグインは、リカバリ プランを管理して構成するアクションとワークフローを提供します。

- リカバリ プランの作成または削除
- 保護グループへの追加、またはリカバリ プランからの保護グループの削除
- テスト ネットワーク マッピングの追加、またはリカバリ プランからのテスト ネットワーク マッピングの削除
- 仮想マシンのリカバリ設定
- リカバリ プランのリスト、およびリカバリ プランの状態の取得
- 次の内容を開始します。

リカバリ プランのテスト

リカバリ プランのクリーンアップ

リカバリ プランのフェイルオーバー

リカバリ プランの再保護

リカバリ プランのキャンセル

計画移行リカバリ プラン

注意 プラグインがリカバリ プランのテスト、クリーンアップ、フェイルオーバー、再保護、計画移行、キャンセルを開始すると、リカバリ プランの状態の初期確認が行われます。ワークフローが正常に実行された場合でも、失敗した場合でも、操作の進捗に関する情報は提供されません。プランの進捗は、vSphere Web Client で監視できます。

このプラグインは、サンプルの自動化されたアクションとワークフローを提供します。

- 単一または複数の仮想マシンの UnassignedReplicatedVM への変換
- アレイベース保護グループの作成、既存の仮想マシンの保護、リカバリ プランへの追加
- 仮想マシンの作成および保護

Site Recovery Manager プラグインのインストール

3

保護サイトおよびリカバリ Site Recovery Manager サイトでワークフローを作成して実行するには、Site Recovery Manager プラグインを vRealize Orchestrator にインストールして構成する必要があります。

この章では次のトピックについて説明します。

- [Site Recovery Manager プラグインの機能前提条件](#)
- [Site Recovery Manager プラグインのインストール、アップグレード、およびアンインストール](#)

Site Recovery Manager プラグインの機能前提条件

Site Recovery Manager プラグインをインストールおよび使用するには、システムが特定の機能前提条件を満たす必要があります。

Site Recovery Manager

使用する Site Recovery Manager プラグインのバージョンと Site Recovery Manager に互換性があることを確認します。

Site Recovery Manager プラグインと Site Recovery Manager の間の互換性については、『Site Recovery Manager 8.1 用の vRealize Orchestrator プラグイン リリース ノート』を参照してください。

Site Recovery Manager のセットアップの詳細については、『Site Recovery Manager のインストールと構成』ドキュメントを参照してください。

vRealize Orchestrator

Orchestrator のインスタンスが実行中で、そのバージョンが Site Recovery Manager および Site Recovery Manager プラグインのバージョンと互換性があることを確認します。

Site Recovery Manager と Orchestrator の間の互換性については、『Site Recovery Manager 8.1 用の vRealize Orchestrator プラグイン リリース ノート』および『Site Recovery Manager 8.1 互換性マトリックス』ドキュメントを参照してください。

Orchestrator のセットアップ、Orchestrator クライアントへのログイン、使用可能な認証方法の詳細については、『VMware vRealize Orchestrator のインストールと構成』ドキュメントを参照してください。

その他の前提条件

vCenter Server プラグインがインストールされていることを確認します。vRealize Orchestrator ドキュメントの「vCenter Server プラグインの使用」トピックを参照してください。

Site Recovery Manager プラグインのインストール、アップグレード、およびアンインストール

Site Recovery Manager プラグインを使用するには、最初に Orchestrator インスタンスにインストールします。Site Recovery Manager プラグインは、Site Recovery Manager および Orchestrator と互換性があるバージョンをインストールする必要があります。

Site Recovery Manager プラグインのインストール

Site Recovery Manager サイトがペアで、Orchestrator インスタンスが vSphere 環境に対応するように構成されている場合は、Site Recovery Manager プラグインをインストールできます。

vSphere 環境を使用するには、Orchestrator を構成する必要があります。vSphere 環境に対応するように Orchestrator を構成する方法の詳細については、『VMware Realize Orchestrator のインストールと構成』ドキュメントの「vRealize Orchestrator の構成」セクションを参照してください。

Site Recovery Manager のダウンロード ページから Site Recovery Manager プラグインのインストール ファイル **.vmoapp** をダウンロードできます。

https://<your_orchestrator_server>:8283/vco-controlcenter の構成インターフェイスを使用すると、Site Recovery Manager プラグインをインストールできます。Orchestrator インスタンスでの **.vmoapp** ファイルのインストール方法の詳細については、『VMware Realize Orchestrator のインストールと構成』ドキュメントの「Orchestrator プラグインの管理」トピックを参照してください。

Site Recovery Manager プラグインのアップグレードおよびアンインストール

プラグインをアンインストールして新しいバージョンをインストールすると、Site Recovery Manager プラグインをアップグレードできます。

https://<your_orchestrator_server>:8283/vco-controlcenter の構成インターフェイスを使用すると、Site Recovery Manager プラグインをアンインストールできます。Site Recovery Manager プラグインをアンインストールする方法の詳細については、『VMware Realize Orchestrator のインストールと構成』ドキュメントの「プラグインのアンインストール」トピックおよび <http://kb.vmware.com/kb/2064575> のナレッジベースの記事「Uninstalling a plug-in from vRealize Orchestrator 5.5.x, 6.0.x, and 7.x」を参照してください。

Site Recovery Manager プラグイン ワークフローの使用

4

Site Recovery Manager プラグイン ワークフロー ライブラリには、Site Recovery Manager タスクの自動化に使用できるワークフローが含まれています。定義済みのワークフローでは、テストの実行、クリーンアップ、リカバリの実行、再保護、およびリカバリ プランのキャンセルを行うことができます。定義済みのワークフローを使用して、カスタム ワークフローを作成できます。

Orchestrator クライアントの [インベントリ] ビューを使用すると、利用可能な Site Recovery Manager のリソースを管理できます。プラグインのスクリプト作成 API を使用すると、カスタム ワークフローを作成できます。

この章では次のトピックについて説明します。

- [Site Recovery Manager プラグインで使用できるワークフロー](#)
- [Site Recovery Manager プラグインを使用する際の前提条件](#)
- [構成ワークフロー](#)
- [Site Recovery Manager プラグインでのインベントリ マッピング ワークフロー](#)
- [Site Recovery Manager プラグインの保護グループ ワークフロー](#)
- [Site Recovery Manager プラグインのリカバリ プラン ワークフロー](#)
- [Site Recovery Manager プラグインのサンプル ワークフロー](#)
- [Site Recovery Manager プラグインのストレージ ワークフロー](#)
- [Site Recovery Manager プラグインの制限事項](#)

Site Recovery Manager プラグインで使用できるワークフロー

Site Recovery Manager プラグインは、構成、インベントリ マッピング、保護グループ、Site Recovery Manager サンプル、ストレージ ワークフローを提供します

表 4-1. 構成ワークフロー

ワークフロー	操作の説明
ローカル サイトの構成	Site Recovery Manager の URL の取得、接続の検証、証明書のインポート、ローカル（または指定した）Platform Services Controller に関連付けられたローカル サイトの登録を実行します
リモート サイトの構成	リモート参照サービスの URL の取得、証明書のインポート、リモート vCenter Server URL の取得、証明書のインポートを実行します

表 4-1. 構成ワークフロー (続き)

ワークフロー	操作の説明
リモート サイトへのログイン	リモート サイトにログインします
ローカル サイトの削除	ローカル サイトを削除します

表 4-2. インベントリ マッピング ワークフロー

ワークフロー	操作の説明
フォルダ マッピングの追加	ペアのサイトの間のフォルダ マッピングを追加します
ネットワーク マッピングの追加	ペアのサイトの間のネットワーク マッピングを追加します
リソース マッピングの追加	ペアのサイトの間のリソース プール マッピングを追加します
テスト ネットワーク マッピングの追加	テスト ネットワーク マッピングをリモート サイトに追加します
フォルダ マッピングの取得	ローカル サイトのフォルダ マッピングをリストします
ネットワーク マッピングの取得	ローカル サイトのネットワーク マッピングをリストします
リソース マッピングの取得	ローカル サイトのリソース マッピングをリストします
テスト ネットワーク マッピングの取得	リモート サイトのテスト ネットワーク マッピングをリストします
フォルダ マッピングの削除	ローカル サイトからフォルダ マッピングを削除します
ネットワーク マッピングの削除	ローカル サイトからネットワーク マッピングを削除します
リソース マッピングの削除	ローカル サイトからリソース マッピングを削除します
テスト ネットワーク マッピングの削除	リモートのテスト ネットワーク マッピングを削除します

表 4-3. 保護グループ ワークフロー

ワークフロー	操作の説明
複製された仮想マシンの vSphere Replication 保護グループへの追加	選択した複製された仮想マシンを既存の vSphere Replication 保護グループに追加します
アレイベース レプリケーションの保護グループの作成	未割り当ての複製されたデータストアに基づき、アレイベース レプリケーションの保護グループを作成します
vSphere Replication 保護グループの作成	vSphere Replication 保護グループを作成し、仮想マシンを保護グループに追加します
データストアごとの ABR 保護グループの検出	ローカル サイトのアレイベース レプリケーション保護グループをリストします
未割り当ての複製されたデータストアの取得	ローカル サイトの未割り当ての複製されたデータストアをリストします
保護されたデータストアのリスト	保護グループの複製されたデータストアをリストします
保護グループのリスト	ローカル サイトの保護グループをリストします
保護グループに関連付けられた保護されていないすべての仮想マシンの保護	保護グループのすべての保護されていない仮想マシン メンバーの保護を有効にします
仮想マシンの保護	保護グループの保護されていない仮想マシン メンバーの保護を有効にします
保護グループの削除	保護グループを削除します

表 4-3. 保護グループ ワークフロー (続き)

ワークフロー	操作の説明
複製された仮想マシンの vSphere Replication 保護グループからの削除	選択された仮想マシンを vSphere Replication 保護グループから削除します
仮想マシンの保護解除	選択した仮想マシンの保護を無効にします

表 4-4. リカバリ プラン ワークフロー

ワークフロー	操作の説明
リカバリ プランへの保護グループの追加	保護グループをリカバリ プランに追加します
テスト ネットワーク マッピングのリカバリ プランへの追加	テスト ネットワーク マッピングをリカバリ プランに追加します
リカバリ プランの作成	リカバリ プランを作成します
リカバリ プランの削除	リカバリ プランを削除します
リカバリ プランの状態の取得	リカバリ プランの状態をリストします
リカバリ プランのキャンセルの開始	実行中のリカバリ プランをキャンセルします
リカバリ プランのクリーンアップの開始	テスト後、リカバリ プランをクリーンアップします
リカバリ プランのフェイルオーバーの開始	サイト リカバリ プロセスのフェイルオーバーを開始します
計画移行リカバリ プランの開始	リカバリ サイトへの計画移行を開始します
リカバリ プランの再保護の開始	サイトの再保護を開始して、保護を反転させます
リカバリ プランのテストの開始	リカバリ プランのテストを開始します
リカバリ プランのリスト	リカバリ プランをリストします
保護グループのリカバリ プランからの削除	保護グループをリカバリ プランから削除します
テスト ネットワーク マッピングのリカバリ プランからの削除	テスト ネットワーク マッピングをリカバリ プランから削除します
仮想マシン リカバリ設定の指定	リカバリ プランの仮想マシンの優先グループ、電源状態、パワーオン前のコマンドとプロンプト、パワーオン後のコマンドとプロンプトを設定します

表 4-5. Site Recovery Manager サンプル ワークフロー

ワークフロー	操作の説明
複数の仮想マシンの UnassignedReplicatedVM への変換	複数の vCenter Server オブジェクトを Site Recovery Manager オブジェクトに変換します
仮想マシンの UnassignedReplicatedVM への変換	単一の vCenter Server オブジェクトを Site Recovery Manager オブジェクトに変換します
アレイベースのレプリケーション (ABR) グループの作成、既存の仮想マシンの保護、リカバリ プランの追加	アレイベース保護グループの作成、保護グループの仮想マシンの保護、保護グループのリカバリ プランへの追加を実行します
仮想マシンの作成、保護	指定した構成で仮想マシンを作成し、保護グループに追加します
タスク終了待機	タスク実行を監視します

表 4-6. ストレージ ワークフロー

ワークフロー	操作の説明
複製されたデバイスの検出	使用可能なすべてのアレイのペアで複製されたデバイスの検出操作を開始します

Site Recovery Manager プラグインを使用する際の前提条件

Site Recovery Manager プラグインを使用するには、使用環境が特定の要件を満たす必要があります。

- 両方のサイトに Site Recovery Manager サーバ インスタンスがインストールされており、ペアになっていることを確認します。
- Orchestrator インスタンスが vSphere インフラストラクチャに対応するように構成されていることを確認します。vSphere 環境に対応するように Orchestrator を構成する方法の詳細については、『VMware Realize Orchestrator のインストールと構成』ドキュメントの「vRealize Orchestrator の構成」セクションを参照してください。

構成ワークフロー

構成ワークフローでは、Lookup Service、認証プロバイダ、および Platform Services Controller を含む vCenter Server トポロジと Site Recovery Manager トポロジに関する情報を登録します。

構成ワークフローは、機能上の前提条件です。インベントリ ツリーからワークフローを実行する前に、[ローカル サイトの構成]、[リモート サイトの構成]、および [リモート サイトへのログイン] の各ワークフローを実行する必要があります。

構成ワークフローの実行

Site Recovery Manager プラグインの [構成] ディレクトリのワークフローは次の手順を使用して実行できます。

手順

- 1 管理者として Orchestrator クライアントにログインし、左上隅にあるドロップダウン メニューから [設計] または [実行] を選択します。
- 2 [ワークフロー] ビューをクリックします。
- 3 [ライブラリ] - [SRM] - [構成] の順に選択します。
- 4 ワークフローを右クリックして、[ワークフローの開始] を選択します。

ローカル サイトの構成

このワークフローでは、プラグインに Site Recovery Manager サイトを登録して、Site Recovery Manager および vCenter Server インベントリにアクセスできるようにします。

このワークフローでは、vCenter Server が Orchestrator クライアントに登録されている必要があります。vSphere 環境で機能するように Orchestrator を構成する方法の詳細については、『VMware Realize Orchestrator のインストールと構成』ドキュメントの「vRealize Orchestrator の構成」セクションを参照してください。vCenter Server が Orchestrator に登録されていない場合、プラグインは Site Recovery Manager の URL を取得できないため、Site Recovery Manager 証明書をインポートできません。

プラグインに Site Recovery Manager サイトをローカル サイトとして登録すると、そのサイトに対してワークフローが機能する方向が定義されます。たとえば、ローカル サイトにインベントリ マッピング ワークフローを実行すると、ローカル サイトのインベントリ オブジェクトがリモート サイトのインベントリ オブジェクトにマッピングされます。単一の Orchestrator インスタンスに Site Recovery Manager の保護サイトとリカバリ サイトの両方をローカル サイトとして登録できます。そのためには、両方の vCenter Server が Orchestrator クライアントに登録されている必要があります。その後、単一の Orchestrator クライアントから両方のサイトに対して、選択した方向で実行できる残りのワークフローを実行できます。

表 4-7. [ローカル サイトの構成] ワークフローの入力

入力	説明
Platform Services Controller	ローカル Platform Services Controller の IP アドレスまたはホスト名
ポート	ローカル サイトのポート (デフォルト値は 443 に設定)
パス	Lookup Service へのパス
ユーザー名	ローカル サイトのユーザー名
パスワード	ローカル サイトのパスワード

リモート サイトの構成

このワークフローでは、ペアリングされたリモートの Site Recovery Manager サイトを Orchestrator インスタンスに登録します。

ワークフローでは、リモート サイトにログインできるように、リモート vCenter Server または Platform Services Controller の証明書をインポートします。このワークフローを実行する前に、ローカルとリモートの Site Recovery Manager サイトをペアリングしておく必要があります。保護サイトとリカバリ サイトの両方をローカル サイトとして登録している場合は、双方向でワークフローを実行するために、両方のサイトに対して[リモート サイトの構成]を実行する必要があります。

表 4-8. [リモート サイトの構成] ワークフローの入力

入力	説明
ローカル サイト	ローカル Site Recovery Manager サイト

リモート サイトへのログイン

他の Site Recovery Manager ワークフローを実行できるように、ワークフローでユーザーをリモート サイトにログインさせます。

このワークフローでは、Site Recovery Manager サイトがペアになっている必要があります。Orchestrator クライアントの各セッションごとに、このワークフローを 1 回実行する必要があります。Orchestrator は、ユーザーが Orchestrator クライアントからログアウトすると、リモートの Site Recovery Manager サイトからログアウトします。リカバリ サイトおよび保護サイトをローカル サイトとして登録した場合、両方のサイトに対してワークフローを実行する必要があります。Site Recovery Manager の保護サイトおよびリカバリ サイトが拡張リンク モードで構成されている場合、[リモート サイトへのログイン] ワークフローを実行する必要はありません。

表 4-9. [リモート サイトへのログイン] ワークフローの必須入力

入力	説明
ローカル サイト	ローカル Site Recovery Manager サイト
ユーザー名	ローカル サイトのユーザー名
パスワード	ローカル サイトのパスワード

ローカル サイトの削除

このワークフローは、ローカル Site Recovery Manager サイトの登録を解除し、内部のプラグイン キャッシュを更新します。

ローカル サイトを削除しても、マッピング、保護グループなど、以前に設定した構成は削除されません。

表 4-10. [ローカル サイトの削除] ワークフローの入力

入力	説明
ローカル Platform Services Controller	Site Recovery Manager サイトが追加されるローカル Platform Services Controller

Site Recovery Manager プラグインでのインベントリ マッピング ワークフロー

インベントリ マッピングを使うと、Site Recovery Manager が保護サイトにある仮想マシンのリソースをリカバリ サイトのリソースにどのようにマッピングするか構成することができます。インベントリ マッピングは、リカバリ サイトのインベントリにデフォルト オブジェクトを提供し、リカバリの実行時に、リカバリされる仮想マシンによって使用されます。

アレイベース レプリケーションおよび vSphere Replication については、保護グループを作成する前にサイト全体のインベントリ マッピングを構成する場合、デフォルトでは、すべての保護対象の仮想マシンに対してこれらのマッピングが使用されます。Site Recovery Manager は、保護グループの作成時に、アレイベース レプリケーション保護グループまたは vSphere Replication 保護グループ内のすべての仮想マシンにサイト全体のマッピングを適用します。サイト全体のインベントリ マッピングは、保護サイトおよびリカバリ サイトで対応する、以下のオブジェクト間に設定することができます。

- ネットワーク。テスト ネットワークを含む
- データセンターまたは仮想マシンのフォルダ

- リソース プール、スタンドアロン ホスト、vApp、クラスタ

注意 リカバリ サイトのリソース プール、フォルダ、またはネットワークは、同じリモート データセンターに存在する必要があります。

インベントリ マッピング ワークフローの実行

Site Recovery Manager プラグインの [インベントリ マッピング] ディレクトリのワークフローは次の手順を使用して実行できます。

手順

- 1 管理者として Orchestrator クライアントにログインし、左上隅にあるドロップダウン メニューから [設計] または [実行] を選択します。
- 2 [ワークフロー] ビューをクリックします。
- 3 [ライブラリ] - [SRM] - [インベントリ マッピング] の順に選択します。
- 4 ワークフローを右クリックして、[ワークフローの開始] を選択します。

フォルダ マッピングの追加

このワークフローでは、ローカル サイトのデータセンターまたは仮想マシンのフォルダからリモート サイトのデータセンターまたは仮想マシンのフォルダへのサイト全体のマッピングを追加します。

ワークフローでは、Site Recovery Manager サイトがペアになっている必要があります。ペアリングが壊れた場合、すべての既存のマッピングが削除され、マッピングをさらに追加することはできません。複数の親（データセンター）と子（仮想マシンのフォルダ）のオブジェクトを単一のオブジェクトにマッピングできます。単一のオブジェクトに指定できるマッピングは 1 つのみです。ワークフローは単一のオブジェクトに複数回実行でき、ワークフローの最新の実行によってサイト全体のマッピングが設定されます。データセンターを仮想マシンのフォルダにマッピングし、仮想マシンのフォルダをデータセンターにマッピングできます。

表 4-11. [フォルダ マッピングの追加] ワークフローの入力

入力	説明
サイト	ローカル Site Recovery Manager サイト
ローカル フォルダ	ローカルのデータセンターまたは仮想マシンのフォルダ
リモート フォルダ	リモートのデータストアまたは仮想マシンのフォルダ

ネットワーク マッピングの追加

このワークフローでは、ローカル サイトのネットワークからリモート サイトのネットワークへのサイト全体のマッピングを追加します。

このワークフローでは、Site Recovery Manager サイトがペアになっていることが必要です。ペアリングが壊れた場合、すべての既存のマッピングが削除され、マッピングをさらに追加することはできません。

表 4-12. [ネットワーク マッピングの追加] ワークフローの入力

入力	説明
サイト	ローカル Site Recovery Manager サイト
ローカル ネットワーク	リモート ネットワークにマッピングされるローカル ネットワーク
リモート ネットワーク	リカバリする際に仮想マシンが接続するリモート ネットワーク

リソース マッピングの追加

このワークフローは、プール、スタンドアロン ホスト、vApp、クラスタなどのコンピュータ リソースのサイト全体のマッピングを、ローカル サイトから、リモート サイトのプール、スタンドアロン ホスト、vApp、クラスタなどのコンピュータ リソースに追加します。

このワークフローでは、Site Recovery Manager サイトがペアになっている必要があります。ペアリングが壊れた場合、すべての既存のマッピングが削除され、マッピングをさらに追加することはできません。

表 4-13. [リソース マッピングの追加] ワークフローの入力

入力	説明
サイト	ローカル Site Recovery Manager サイト
ローカル リソース	ローカル リソース - リソース プール、スタンドアロン ホスト、vApp、クラスタ
リモート リソース	リモート リソース - リソース プール、スタンドアロン ホスト、vApp、クラスタ

テスト ネットワーク マッピングの追加

このワークフローは、リモート サイトのネットワークのサイト全体のマッピングをリモート サイトのテスト ネットワークに追加します。

このワークフローでは、Site Recovery Manager サイトがペアになっている必要があります。ペアリングが壊れた場合、すべての既存のマッピングが削除され、マッピングをさらに追加することはできません。

このワークフローは、リモート サイトの既存のネットワークを、そのリモート サイトのテスト ネットワークとして機能する別の既存のネットワークにマッピングします。

表 4-14. [テスト ネットワーク マッピングの追加] ワークフローの入力

入力	説明
サイト	ローカル Site Recovery Manager サイト
リモート ネットワーク	リモート サイトのネットワーク
テスト ネットワーク	リモート サイトのテスト ネットワーク

フォルダ マッピングの取得

このワークフローは、既存のマッピングを持つローカル サイトのデータセンターまたは仮想マシン フォルダをリストします。

保護サイトとリカバリ サイトがローカル サイトとして登録されている場合、両方のサイトで既存のマッピングを持つすべてのデータセンターまたは仮想マシン フォルダを確認することができます。このワークフローでは、対応するオブジェクト間の正確なマッピングは表示されません。

表 4-15. [フォルダ マッピングの取得] ワークフローの入力

入力	説明
サイト	ローカル Site Recovery Manager サイト

ネットワーク マッピングの取得

このワークフローは、既存のマッピングのあるローカル サイトのネットワークをリストします。

保護サイトとリカバリ サイトがローカル サイトとして登録されている場合、両方のサイトで既存のマッピングを持つすべてのネットワークを確認することができます。このワークフローでは、対応するオブジェクト間の正確なマッピングは表示されません。

表 4-16. [ネットワーク マッピングの取得] ワークフローの入力

入力	説明
サイト	ローカル Site Recovery Manager サイト

リソース マッピングの取得

このワークフローは、既存のマッピングのあるローカル サイトのリソースをリストします。

保護サイトとリカバリ サイトがローカル サイトとして登録されている場合、両方のサイトで既存のマッピングを持つすべてのリソースを確認することができます。このワークフローでは、対応するオブジェクト間の正確なマッピングは表示されません。

表 4-17. [リソース マッピングの取得] ワークフローの入力

入力	説明
サイト	ローカル Site Recovery Manager サイト

テスト ネットワーク マッピングの取得

このワークフローは、リモート サイトのテスト ネットワークへの既存のマッピングを持つネットワークをリストします。

保護サイトとリカバリ サイトがローカル サイトとして登録されている場合、両方のサイトでリモートのテスト ネットワークへの既存のマッピングを持つすべてのリモート ネットワークを確認することができます。このワークフローでは、対応するオブジェクト間の正確なマッピングは表示されません。

表 4-18. [テスト ネットワーク マッピングの取得] ワークフローの入力

入力	説明
サイト	ローカル Site Recovery Manager サイト

フォルダ マッピングの削除

このワークフローは、ローカル フォルダまたはデータセンターとリモート フォルダまたはデータセンターの間の既存のサイト全体のマッピングを削除します。

表 4-19. [フォルダ マッピングの削除] ワークフローの入力

入力	説明
サイト	ローカル Site Recovery Manager サイト
フォルダ マッピング	削除するフォルダ マッピング

ネットワーク マッピングの削除

このワークフローは、ローカル サイトのネットワークとリモート サイトのネットワークの間の既存のサイト全体のマッピングを削除します。

表 4-20. [ネットワーク マッピングの削除] ワークフローの入力

入力	説明
サイト	ローカル Site Recovery Manager サイト
ネットワーク マッピング	削除するネットワーク マッピング

リソース マッピングの削除

このワークフローは、ローカル サイトのリソースとリモート サイトのリソースの間の既存のサイト全体のマッピングを削除します。

表 4-21. [リソース マッピングの削除] ワークフローの入力

入力	説明
サイト	ローカル Site Recovery Manager サイト
リソース マッピング	削除するリソース マッピング

テスト ネットワーク マッピングの削除

このワークフローは、リモート サイトのネットワークとリモート サイトのテスト ネットワークの間の既存のサイト全体のマッピングを削除します。

表 4-22. [テスト ネットワーク マッピングの削除] ワークフローの入力

入力	説明
サイト	ローカル Site Recovery Manager サイト
テスト ネットワーク マッピング	削除するテスト ネットワーク マッピング

Site Recovery Manager プラグインの保護グループ ワークフロー

保護グループとは、Site Recovery Manager がまとめて保護する仮想マシンまたは複製されたデータストアの集合です。Site Recovery Manager プラグインを使うと、アレイベース レプリケーションまたは vSphere Replication に基づいて、仮想マシンを保護グループに追加することができます。

保護グループ ワークフローの実行

Site Recovery Manager プラグインの [保護グループ] ディレクトリのワークフローは次の手順を使用して実行できます。

手順

- 1 管理者として Orchestrator クライアントにログインし、左上隅にあるドロップダウン メニューから [設計] または [実行] を選択します。
- 2 [ワークフロー] ビューをクリックします。
- 3 [ライブラリ] - [SRM] - [保護グループ] の順に選択します。
- 4 ワークフローを右クリックして、[ワークフローの開始] を選択します。

複製された仮想マシンの vSphere Replication 保護グループへの追加

このワークフローは、vSphere Replication に対して構成された仮想マシンを vSphere Replication 保護グループに追加します。

表 4-23. [複製された仮想マシンの vSphere Replication 保護グループへの追加] ワークフローの入力

入力	説明
保護グループ	ローカルの vSphere Replication 保護グループ
仮想マシン	vSphere Replication が有効になっている仮想マシン

アレイベース レプリケーションの保護グループの作成

このワークフローでは、アレイベース レプリケーションの保護グループを作成します。

表 4-24. [アレイベース レプリケーションの保護グループの作成] ワークフローの入力

入力	説明
保護フォルダ	保護グループを配置するローカル Site Recovery Manager サイトのフォルダ
名前	保護グループ名
説明	簡単な説明
データストア	アレイベース レプリケーションを有効にするデータストア

vSphere Replication 保護グループの作成

このワークフローでは、vSphere Replication 保護グループを作成します。

表 4-25. [vSphere Replication 保護グループの作成] ワークフローの入力

入力	説明
保護フォルダ	保護グループを配置するローカル Site Recovery Manager サイトのフォルダ
名前	保護グループの名前
説明	簡単な説明
仮想マシン	保護グループに追加する仮想マシン

データストアごとのアレイベース レプリケーション保護グループの検出

このワークフローは、ローカル データストアのアレイベース レプリケーション保護グループをリストします。

表 4-26. [データストアごとのアレイベース レプリケーション保護グループの検出] ワークフローの入力

入力	説明
サイト	ローカル Site Recovery Manager サイト
データストア	ローカル vCenter Server に接続されるデータストア

未割り当ての複製されたデータストアの取得

このワークフローは、アレイベース レプリケーション保護グループに関連付けされていないローカル サイトのすべての複製されたデータストアをリストします。

表 4-27. [未割り当ての複製されたデータストアの取得] ワークフローの入力

入力	説明
サイト	ローカル Site Recovery Manager サイト

保護されたデータストアのリスト

このワークフローは、アレイベース レプリケーション保護グループに関連付けされた、すべての複製されたデータストアをリストします。

このワークフローで許可されている入力はアレイベース レプリケーション保護グループのみです。入力に対し、アレイベース レプリケーションが有効にされていて、選択した保護グループと関連付けされているデータストアのリストを返します。

表 4-28. [保護されたデータストアのリスト] ワークフローの入力

入力	説明
保護グループ	アレイベース レプリケーション保護グループのみ

保護グループのリスト

このワークフローは、既存のアレイベース レプリケーションおよび vSphere Replication 保護グループをリストします。

表 4-29. [保護グループのリスト] ワークフローの入力

入力	説明
サイト	ローカル Site Recovery Manager サイト

保護グループに関連付けられた保護されていないすべての仮想マシンの保護

このワークフローは、保護グループのメンバーである保護されていないすべての仮想マシンに対して保護を有効にし、リカバリ サイトにプレースホルダ仮想マシンを作成します。

表 4-30. [保護グループに関連した保護されていないすべての仮想マシンの保護] ワークフローの入力

入力	説明
保護グループ	ローカル Site Recovery Manager サイトの保護グループ

仮想マシンの保護

このワークフローは、仮想マシンの保護を有効にして、リカバリ サイトにプレースホルダ仮想マシンを作成します。

表 4-31. [仮想マシンの保護] ワークフローの入力

入力	説明
保護グループ	ローカル Site Recovery Manager サイトの保護グループ
仮想マシン	レプリケーションが有効な仮想マシン

保護グループの削除

このワークフローは保護グループを削除します。

保護グループを削除すると、Site Recovery Manager は、そのグループからすべての仮想マシンを削除して保護を停止し、リカバリ サイトのすべてのプレースホルダ仮想マシンを削除します。

表 4-32. [保護グループの削除] ワークフローの入力

入力	説明
保護グループ	削除するローカル保護グループ

複製された仮想マシンの vSphere Replication 保護グループからの削除

このワークフローは、仮想マシンを vSphere Replication 保護グループから削除します。

このワークフローを実行する時は、保護グループのメンバーである vCenter Server インベントリから仮想マシンを選択する必要があります。

表 4-33. [複製された仮想マシンの vSphere Replication 保護グループからの削除] ワークフローの入力

入力	説明
保護グループ	ローカル Site Recovery Manager
仮想マシン	選択した vSphere Replication 保護グループの仮想マシン メンバー

仮想マシンの保護解除

このワークフローは、選択した保護グループから仮想マシンの保護を解除し、ブレースホルダ仮想マシンをリカバリ サイトから削除します。

表 4-34. [仮想マシンの保護解除] ワークフローの入力

入力	説明
保護グループ	ローカル Site Recovery Manager サイトの保護グループ
保護される仮想マシン	選択した保護グループの保護される仮想マシン メンバー

Site Recovery Manager プラグインのリカバリ プラン ワークフロー

リカバリ プランには、Site Recovery Manager が仮想マシンを保護サイトからリカバリ サイトにリカバリ する際の手順が含まれています。

リカバリ プランには 1 つ以上の保護グループを含めることができます。[保護グループのリカバリ プランへの追加] および [保護グループのリカバリ プランからの削除] ワークフローを使うと、保護グループをリカバリ プランに追加したり、削除したりできます。リカバリ プランは、アレイベース レプリケーション保護グループおよび vSphere Replication 保護グループの両方を含むことができます。

Site Recovery Manager プラグインのリカバリ プラン ワークフローの実行

Site Recovery Manager プラグインの [リカバリ プラン] ディレクトリのワークフローは次の手順を使用して実行できます。

手順

- 1 管理者として Orchestrator クライアントにログインし、左上隅にあるドロップダウン メニューから [設計] または [実行] を選択します。
- 2 [ワークフロー] ビューをクリックします。
- 3 [ライブラリ] - [SRM] - [リカバリ プラン] の順に選択します。
- 4 ワークフローを右クリックして、[ワークフローの開始] を選択します。

リカバリ プランへの保護グループの追加

このワークフローでは、選択した Site Recovery Manager サイトに保護グループを追加します。

リカバリ プランに追加する保護グループは、選択した Site Recovery Manager サイトに対してローカルになっている必要があります。

表 4-35. [リカバリ プランへの保護グループの追加] ワークフローの入力

入力	説明
サイト	ローカル Site Recovery Manager サイト
保護グループ	ローカル Site Recovery Manager サイトで作成された保護グループ

テスト ネットワーク マッピングのリカバリ プランへの追加

このワークフローは、選択したリカバリ プランにリモート サイトの既存のネットワークと既存のテスト ネットワーク間のマッピングを追加します。

テスト ネットワークは、[リカバリ プランの作成] ワークフローを使用して手動または自動で作成する必要があります。リカバリ プランでリカバリ中に使用するネットワークごとにテスト ネットワークを構成する必要があります。

表 4-36. [テスト ネットワーク マッピングのリカバリ プランへの追加] ワークフローの入力

入力	説明
リカバリ プラン	ローカルの Site Recovery Manager サイトにあるリカバリ プラン
リモート ネットワーク	テスト ネットワークにマッピングされるリモート ネットワーク
テスト ネットワーク	テスト ネットワークとして機能するリモート ネットワーク

リカバリ プランの作成

このワークフローでは、リカバリ プランを作成し、既存の保護グループを追加します。

表 4-37. [リカバリ プランの作成] ワークフローの入力

入力	説明
リカバリ フォルダ	リカバリ プランを配置するローカル Site Recovery Manager サイトのフォルダ
名前	リカバリ プランの名前
説明	簡単な説明
保護グループ	リカバリ プランに追加する既存のアレイベースの保護グループまたは vSphere Replication 保護グループ

リカバリ プランの削除

このワークフローはリカバリ プランを削除します。

このワークフローは、実行時のリカバリ プランの状態のチェックを実行します。リカバリ プランが不正な状態にある場合、エラーメッセージ「**This operation is not allowed in the current state**」とともにワークフローが失敗します。

表 4-38. [リカバリ プランの削除] ワークフローの入力

入力	説明
リカバリ プラン	ローカルの Site Recovery Manager サイトにあるリカバリ プラン

リカバリ プランの状態の取得

このワークフローは、選択されたりカバリ プランの状態をリストします。

表 4-39. [リカバリ プランの状態の取得] ワークフローの入力

入力	説明
サイト	ローカル Site Recovery Manager サイト

Site Recovery Manager の外部 API は、デフォルトの内部の状態と比較して、さまざまなリカバリ プランの状態を割り当てます。表 4-39 に、外部 API のリカバリ プランの状態と内部 Site Recovery Manager のリカバリ プランの状態のマッピングを示します。

表 4-40. 外部リカバリ プランの状態のマッピング

状態	ローカルの状態	ピアの状態
running	testInitiated	testInitiated
	testInProgress	testInProgress
	cleanupInProgress	cleanupInProgress
	failoverInitiated	failoverInitiated
	failoverInProgress	failoverInProgress
	reprotectInitiated	reprotectInitiated
	reprotectInProgress	reprotectInProgress
	rollbackInitiated	rollbackInitiated
	rollbackInProgress	rollbackInProgress
failedOver	failedOver	failedOver
	partialRollback	partialRollback
needsReprotect	partialReprotect	partialReprotect
	reprotectIncomplete	reprotectIncomplete
	reprotectInterrupted	reprotectInterrupted
needsCleanup	testComplete	testComplete
	cleanupIncomplete	cleanupIncomplete
	cleanupInterrupted	cleanupInterrupted
needsFailover	partialFailover	failedOverSplit
	failedOverSplit	failoverIncomplete
	failoverIncomplete	failoverInterrupted
	failoverInterrupted	
needsRollback	rollbackIncomplete	rollbackIncomplete
	rollbackInterrupted	rollbackInterrupted

表 4-40. 外部リカバリ プランの状態のマッピング (続き)

状態	ローカルの状態	ピアの状態
error	readyMixed	readyMixed
	noProtectionGroups	noProtectionGroups
	deleting	deleting
	groupsInUse	groupsInUse
	unknownState	unknownState
	syncConflict	syncConflict
ready	readyReceiving	
	testInterrupted	

リカバリ プランのキャンセルの開始

このワークフローは、リカバリ プランのフェイルオーバーまたはテストのキャンセルを開始します。

テストまたはリカバリをキャンセルすると、Site Recovery Manager はプロセスを開始することなく、特定のルールを使用して処理中のプロセスを停止します。フェイルオーバーをキャンセルした場合は再実行する必要があります。テストをキャンセルした場合はクリーンアップする必要があります。

- パワーオン、ハートビートの待機などの停止できないプロセスは、完了するまで実行してからキャンセルを完了します。
- ストレージデバイスを追加または削除するプロセスをキャンセルした場合は、クリーンアップ操作によって元に戻されます。

このワークフローは、実行時のリカバリ プランの状態のチェックを実行します。リカバリ プランの状態が [running] である場合、リカバリまたはテストをキャンセルすることができます。

リカバリ プランは、ペアのサイトの間での保護の方向を指定して作成されます。[リカバリ プランのキャンセルの開始] ワークフローを実行すると、リカバリ（受信）サイトでリカバリまたはテストをキャンセルすることができます。

表 4-41. [リカバリ プランのキャンセルの開始] ワークフローの入力

入力	説明
リカバリ プラン	リモートの Site Recovery Manager サイトで状態が [running] のリカバリ プラン。

リカバリ プランのクリーンアップの開始

このワークフローはリカバリ プランのクリーンアップを開始します。

このワークフローは、実行時のリカバリ プランの状態のチェックを実行します。リカバリ プランの状態が [needsCleanup] である場合、テストをクリーンアップすることができます。

リカバリ プランは、ペアのサイトの間での保護の方向を指定して作成されます。[リカバリ プランのクリーンアップの開始] ワークフローを実行すると、リカバリ（受信）サイトのリカバリ プランのテストをクリーンアップすることができます。

表 4-42. [リカバリ プランのクリーンアップの開始] ワークフローの入力

入力	説明
リカバリ プラン	リカバリ Site Recovery Manager サイトのリカバリ プラン

リカバリ プランのフェイルオーバーの開始

このワークフローは、選択したリカバリ プランを使用して、保護サイトからリカバリ サイトへのディザスタ リカバリのフェイルオーバーを開始します。ディザスタ リカバリのフェイルオーバーが完了すると、Site Recovery Manager は、仮想マシンをリカバリ サイトにリカバリします。操作中に保護サイトでエラーが発生しても、ディザスタ リカバリのフェイルオーバーは続行し、失敗しません。

[リカバリ プランのフェイルオーバーの開始] ワークフローはリカバリ サイトで実行することができます。

このワークフローは、実行時のリカバリ プランの状態のチェックを実行します。リカバリ プランの状態が [ready] である場合、フェイルオーバーを実行できます。

表 4-43. 「リカバリ プランのフェイルオーバーの開始」 ワークフローの入力

入力	説明
リカバリ プラン	保護サイトからリカバリ サイトへフェイルオーバーするリカバリ プラン

計画移行リカバリ プランの開始

このワークフローは、選択したリカバリ プランを使用して、保護サイトからリカバリ サイトへの計画移行のフェイルオーバーを開始します。計画移行のフェイルオーバーが完了すると、Site Recovery Manager は、仮想マシンをリカバリ サイトに移行し、保護サイトの対応する仮想マシンをシャットダウンしようとします。保護サイトでエラーが発生した場合、エラーを解決してプランを再実行できるように、計画移行操作は停止します。

リカバリ プランは、ペアのサイトの間での保護の方向を指定して作成されます。[計画移行リカバリ プランの開始] ワークフローはリカバリ (受信) サイトで実行することができます。

表 4-44. [計画移行リカバリ プランの開始] ワークフローの入力

入力	説明
リカバリ プラン	リカバリ Site Recovery Manager サイトのリカバリ プラン

リカバリ プランの再保護の開始

このワークフローは、フェイルオーバーが完了した後、リカバリ サイトで仮想マシンを保護する再保護プロセスを開始します。

再保護プロセスは、リカバリがエラーなく完了し、元の保護サイトが運用可能である場合のみ開始できます。フォルダ、ネットワーク、リソースの反転マッピングは、元のリカバリ サイトから元の保護サイトに実行される必要があります。再保護プロセスでは、Site Recovery Manager は、保護の方向を反転させ、新しい保護サイトから新しいリカバリ サイトへのストレージの同期を強制的に実行します。

[リカバリ プランの再保護の開始] ワークフローは、リカバリ サイトで実行することができます。

このワークフローは、実行時のリカバリ プランの状態のチェックを実行します。リカバリ プランの状態が [failedOver] である場合、再保護ワークフローを実行できます。

表 4-45. [リカバリ プランの再保護の開始] ワークフローの入力

入力	説明
リカバリ プラン	保護サイトからリカバリ サイトへフェイルオーバーされるリカバリ プラン

リカバリ プランのテストの開始

このワークフローは、選択したリカバリ プランのテストを開始します。

このワークフローは、実行時のリカバリ プランの状態のチェックを実行します。リカバリ プランの状態が [ready] である場合、テストを実行できます。

リカバリ プランは、ペアのサイトの間での保護の方向を指定して作成されます。[リカバリ プランのテストの開始] ワークフローはリカバリ サイトで実行することができます。リカバリ プランのテスト後、リカバリ プランを元の状態に戻すには、クリーンアップを実行する必要があります。

表 4-46. [リカバリ プランのテストの開始] ワークフローの入力

入力	説明
リカバリ プラン	リカバリ サイトでテストを実行するリカバリ プラン

リカバリ プランのリスト

このワークフローは、すべてのアレイベース レプリケーションおよび vSphere Replication リカバリ プランをリストします。

表 4-47. [リカバリ プランのリスト] ワークフローの入力

入力	説明
サイト	ローカル Site Recovery Manager サイト

保護グループのリカバリ プランからの削除

このワークフローは、保護グループをリカバリ プランから削除します。

このワークフローは、実行時のリカバリ プランの状態のチェックを実行します。リカバリ プランの状態が [ready] である場合、保護グループをリカバリ プランから削除することができます。

表 4-48. [保護グループのリカバリ プランからの削除] ワークフローの入力

入力	説明
リカバリ プラン	ローカル Site Recovery Manager サイトのリカバリ プラン
保護グループ	選択したリカバリ プランの保護グループ メンバー

テスト ネットワーク マッピングのリカバリ プランからの削除

このワークフローは、テスト ネットワーク マッピングをリカバリ プランから削除します。

このワークフローは、実行時のリカバリ プランの状態のチェックを実行します。リカバリ プランの状態が [ready] である場合、保護グループをリカバリ プランから削除することができます。

表 4-49. [テスト ネットワーク マッピングのリカバリ プランからの削除] ワークフローの入力

入力	説明
リカバリ プラン	ローカル Site Recovery Manager サイトのリカバリ プラン
テスト ネットワーク	リモート テスト ネットワーク

仮想マシン リカバリ設定の指定

仮想マシンをリカバリする時は、Site Recovery Manager は事前に定義された手順を特定の順序で実行します。

[仮想マシン リカバリ設定の指定] を使用すると、仮想マシンのリカバリ方法の設定とカスタマイズができます。このワークフローの [コマンド] または [プロンプト] 入力を使用すると、手順をカスタマイズして追加することができます。

表 4-50. [仮想マシン リカバリ設定の指定] ワークフローの入力

入力			説明
リカバリ プラン			ローカル Site Recovery Manager サイトのリカバリ プラン
仮想マシン			リカバリ設定を指定する仮想マシン
電源			仮想マシンの最終電源状態
優先グループ			仮想マシンのシャットダウンおよびパワーオンの順序を、最高 1、最低 5 で指定します
パワーオン前後の手順	コマンド	コマンド名	コマンド名を指定します
		コマンド テキスト	実行するコマンドまたはスクリプトを指定します
		コマンド タイムアウト	実行後のタイムアウトを設定します
	プロンプト	プロンプト名	プロンプト名を指定します
		プロンプト テキスト	ユーザーにタスク実行を確認し、ユーザーが認証する必要のある情報を提供します

Site Recovery Manager プラグインのサンプル ワークフロー

[SRM サンプル] ディレクトリでは、仮想マシンの保護の構成、Site Recovery Manager インフラストラクチャの作成などのタスクを自動化するサンプル ワークフローが提供されます。

SRM サンプル ワークフローの実行

Site Recovery Manager プラグインの [SRM サンプル] ディレクトリのワークフローは次の手順を使用して実行できます。

手順

- 1 管理者として Orchestrator クライアントにログインし、左上隅にあるドロップダウンメニューから [設計] または [実行] を選択します。
- 2 [ワークフロー] ビューをクリックします。
- 3 [ライブラリ] - [SRM] - [SRM サンプル] の順に選択します。
- 4 ワークフローを右クリックして、[ワークフローの開始] を選択します。

複数の仮想マシンの UnassignedReplicatedVM への変換

UnassignedReplicatedVM は Site Recovery Manager 固有のプログラミング オブジェクトです。このワークフローでは、複数の vCenter Server オブジェクト（この場合は、レプリケーションが有効になっている、保護グループに属していない仮想マシン）を利用可能なワークフローの実行に使用できる Site Recovery Manager オブジェクトに変換します。

表 4-51. [複数の仮想マシンの UnassignedReplicatedVM への変換] ワークフローの入力

入力	説明
サイト	ローカル Site Recovery Manager サイト
仮想マシン	Site Recovery Manager オブジェクトに変換する仮想マシン

仮想マシンの UnassignedReplicatedVM への変換

UnassignedReplicatedVM は Site Recovery Manager 固有のプログラミング オブジェクトです。このワークフローでは、単一の vCenter Server オブジェクト（この場合は、レプリケーションが有効になっている、保護グループに属していない仮想マシン）を利用可能なワークフローの実行に使用できる Site Recovery Manager オブジェクトに変換します。

表 4-52. [仮想マシンの UnassignedReplicatedVM への変換] ワークフローの入力

入力	説明
サイト	ローカル Site Recovery Manager サイト
仮想マシン	Site Recovery Manager オブジェクトに変換する仮想マシン

アレイベースのレプリケーション (ABR) グループの作成、既存の仮想マシンの保護、リカバリ プランへの追加

このワークフローでは、アレイベース レプリケーション保護グループを作成し、保護グループ内で保護されていないすべての仮想マシンの保護を有効にします。さらに、選択したリカバリ プランに保護グループを追加し、選択したリカバリ プランの状態を表示します。

表 4-53. [ABR グループの作成、既存の仮想マシンの保護、リカバリ プランの追加] ワークフローの入力

入力	説明
保護フォルダ	ローカル Site Recovery Manager サイトの保護グループ フォルダ
名前	保護グループ名

表 4-53. [ABR グループの作成、既存の仮想マシンの保護、リカバリ プランの追加] ワークフローの入力 (続き)

入力	説明
説明	簡単な説明
データストア	アレイベース レプリケーションが設定されたローカル データストア
リカバリ プラン	ローカル Site Recovery Manager サイトのリカバリ プラン

仮想マシンの作成と保護

このワークフローでは、指定した構成で仮想マシンを作成し、保護グループに追加して保護を有効にします。

表 4-54. [仮想マシンの作成と保護] ワークフローの入力

入力	説明
仮想マシン名	作成する仮想マシンの名前
仮想マシンで使用するゲスト OS	ゲスト OS (目的のゲスト OS を検索)
仮想マシンのフォルダ	仮想マシンを配置する vCenter Server インベントリのフォルダ
仮想マシンを作成するリソース プール	仮想マシンを配置する vCenter Server インベントリのリソース プール
仮想マシンを作成するホスト	仮想マシンを配置する vCenter Server インベントリのホスト
仮想ディスクのサイズ (GB)	仮想マシンのハード ドライブのサイズ (GB)
仮想マシンのメモリ (MB)	仮想マシンのメモリのサイズ (MB)
仮想プロセッサの数	仮想マシンに割り当てられる仮想プロセッサの数
接続するネットワーク	仮想マシンを接続する vCenter Server のネットワーク
仮想マシンのファイルを保存するデータストア	仮想マシンのファイルを配置する vCenter Server のデータストア
ディスクをシン プロビジョニングする	シン プロビジョニングまたはシック プロビジョニングされた仮想マシンのディスク
保護グループ	ローカル Site Recovery Manager の保護グループ。保護グループによってレプリケーションの種類が決まります。

タスク終了待機

このワークフローは、Site Recovery Manager のスクリプティング オブジェクト タスクの実行を監視し、完了したらタスクの状態を出力します。

表 4-55. [タスク終了待機] ワークフローの入力

入力	説明
タスク	[複製されたデバイス検出] タスクまたはユーザー作成のスクリプティング オブジェクト タスク

Site Recovery Manager プラグインのストレージ ワークフロー

ストレージ ワークフローの実行

Site Recovery Manager プラグインの [ストレージ] ディレクトリのワークフローは次の手順を使用して実行できます。

手順

- 1 管理者として Orchestrator クライアントにログインし、左上隅にあるドロップダウン メニューから [設計] または [実行] を選択します。
- 2 [ワークフロー] ビューをクリックします。
- 3 [ライブラリ] - [SRM] - [ストレージ] の順に選択します。
- 4 ワークフローを右クリックして、[ワークフローの開始] を選択します。

複製されたデバイスの検出

このワークフローは、有効になっているすべてのアレイ ペアで、複製されたデバイスの検出操作を開始します。

表 4-56. [複製されたデバイスの検出] ワークフローの入力

入力	説明
サイト	ローカル Site Recovery Manager サイト

Site Recovery Manager プラグインの制限事項

Site Recovery Manager プラグインには制限事項があります。

Site Recovery Manager プラグインを使用する場合は、次の制限事項を考慮してください。

- Site Recovery Manager プラグインを使用して IP アドレス設定をカスタマイズできません。